

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field (事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日) and Value (4091800138, 有限会社 ケアサービス九州, グループホーム ふぁみりー伊川, 福岡県飯塚市伊川字原ノ前 1番1, 平成25年1月15日)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: Field (基本情報リンク先) and Value (http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: Field (評価機関名, 所在地, 訪問調査日, 評価結果確定日) and Value (株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部, 福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階, 平成25年2月8日, 平成25年3月13日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念でもある「人としての尊厳と心のふれ合いを大切に」をもとに支援を行っている。集団ではなく個別ケアを重視している。利用者が自分らしく生きる姿を支えていく努力をし、同時に働く職員も自分らしくあることを大切に考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

主要道路から少し入った閑静な住宅地の中にあり、事業所前には、自治会の公民館が位置している。今年度は、自治会の資源ごみ倉庫の管理も引き受け、地域の一員としての役割を担っている。また、運営推進会議での意見交換を通じて、事業所便りを回覧板に掲載しており、活動報告や行事案内等、積極的に情報提供を行い、地域拠点としての活動展開の可能性を広げている。開設して6年目を迎えようとする中、少しずつ重度化へと移行している現状がある。管理者、職員は、これまでの生活習慣や馴染みの関係性の継続、暮らしの中でのこだわり等を大切に伝え、思いを叶えるよう出来る限りの支援を行っている。家族との対話の機会も多く、日常の来訪時はもとより、運営推進会議や家族会、3ヶ月毎の面談等、関係性を重視していることが伝わる。今後も、個別の思いやニーズに向き合い、家族や地域との連携を積み重ねながら、理念とする「人としての尊厳と心のふれあい」を大切にしたい支援の追求が大いに期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Results (Criteria 1-4), and Evaluation (O/C). Rows 58-64 cover various service aspects like staff attitude, user safety, and family support.

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念と運営方針はミーティングにて唱和している。利用者とその家族に安心・信頼・満足を得るよう支援活動を行っている。	職員間で基本理念の見直しも行われている。その上で設立当初の理念を大切にしていこうと決めており、あらためて理念を共有する機会ともなった。ミーティングで理念や方針を唱和している。介護記録には「基本理念に基づいてどのように関わったか」という項目も設けられ、職員が意識してケアを行う事を重視している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム便りを発行し回覧板で案内しており、地域の幼稚園児との交流も毎年恒例として行っている。また、子ども100当番の家となり校区の子供が気軽に立ち寄っている。今年度から自治会の資源ごみ倉庫の管理をさせていただいている。	自治会に入会している。3か月ごとに発行の「ふぁみりー伊川だより」を回覧板に掲載し、行事案内や活動報告を行っている。中学生の職場体験学習を受け入れたり、近隣の幼稚園の園児たちとの交流がある。踊りや三味線のボランティアの訪問もある。ホーム前には、自治会の資源ごみ倉庫があり、鍵を預り管理の役を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の困りごとはないかアンケートをとり、これからグループホームでの共用型デイの必要があるかなども検討した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会代表、利用者ご家族、地域包括支援センター職員、他事業所管理者に参加いただき、近況報告や事業所の取り組みについて報告し、ご質問や要望、意見などを賜り、サービス向上に努めている。	自治会長、複数の家族、地域包括支援センター職員等の出席を得て、定期開催されている。回覧板に事業所便りを掲載することも、会議の中で決定している。活動報告や意見交換をおこない、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様のサービスについての相談や、運営推進会議への参加や必要に応じて勉強会なども行っていただいている。	市の派遣する福祉相談員の訪問を受け入れている。運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ており、日頃より相談をしたり、助言をいただいで協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は入職当日にマニュアルを熟読してもらい、ミーティングでは身体拘束排除にむけマニュアルに沿って勉強会を行っている。日常的に身体拘束をしないケアに努めている。	日中、玄関の施錠は行われていない。さりげなく職員が寄り添い見守っている。年間研修計画の中に取り上げ、言葉による抑制についても意識を高めながら、職員間で共通の認識を持ち対応することを心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法関連についての勉強会を行っており、全員に周知徹底している。その際に自分たちが行っているケアについてを振り返り、ささいな事でも芽を摘むように努めている。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の研修の場は設けていないが、パンフレットや資料により個別に学習している。現在この制度を利用されている入居者様は居られないが、ご家族様との面談で必要な助言はさせて頂いている。	権利擁護に関する制度については、パンフレットや資料を基に、内部研修を行っている。現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されている方はいないが、相談があれば、説明できる様にしている。今後は、運営推進会議等における積極的な情報提供も期待されます。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明を行い、些細な不安や疑問も伺い答えている。改定の時期にはその都度お知らせしご理解を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろ何気ない会話の中で、要望や不満などが伺えた時には迅速に対応している。ご家族様とは面会時や3ヶ月に一度行っている面談の場で伺っている。議事録に残すことで全職員に共有すると共にケアプランにも反映させている。	3か月ごとの家族面談の機会を利用して、意見や要望を収集し、相談を受けている。運営推進会議にも、複数の家族の参加を得ており、活発な意見交換が行われている。出された意見は、職員間で検討し反映できる様努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでの意見や、要望ノートでの意見提案は反映させている。年2回個人面談にて個別に話す機会も設けている。	年に2回、職員との個人面談を行っている。また、「要望ノート」を作成し、意見や要望を記入出来るようにしている。「要望ノート」には、案件に対して、他の職員からの意見も書かれており、皆で検討して反映できる様にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、人事考課や目標及び目標達成度、各人の努力や実績は運営者に報告し、ベースアップの基準としている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワークで求人募集を行っている。面接の際は運営者が「介護に対する思い」を必ず尋ねるようにしており、出勤初日より、新人研修カリキュラムに沿ってオリエンテーションを行っている。産休・育休からの復帰実績もある。	管理者による面接が行われている。採用にあたっては、「介護に対する思い」を必ず聞くようにしている。産休や育休の取得や、復帰に向けた配慮も行われており、働きやすい職場環境づくりへの取り組みが確認できる。年度初めに個人目標を設定し、6か月ごとの評価を行い、自己実現やモチベーションの確保につなげていくよう取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングや外部研修で身体拘束や高齢者虐待防止法関連についての勉強会を行っている。	同法人の地域密着型事業所と合同で、外部講師を招き、人権に関する研修を実施している。また、高齢者虐待防止や倫理・法令順守等の研修実施を通じて、職員の意識を高める取り組みに、継続して取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて法人外での研修に参加させると共に、年2回自己研鑽の為の研修の自主参加の機会を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所間での交換研修の機会を設けている。また、グループホーム協議会への参加や地域密着型連絡協議会の発足により相互の悩み、活動などを話し人事交流を図ることで、質の向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居見学や入居相談は随時行っており、ご家族様や本人が安心して満足に生活できるよう努めており、入居後は会話の中で細かい表情やしぐさを見逃さずご本人の真意を探り思いをくみ取りながら信頼関係が築けるよう安心に繋がる言葉かけを大事にしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望に至るまでの経緯を伺い、ご家族様の困りごとや不安なことは十分に理解し何でも相談でき信頼して頂くように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点の精神的、身体的状態を観察し、ご家族の気持ちも十分に考慮しながら事業所として出来る事出来ないことの説明を行い適切な対応を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭に近い環境の中で生きがいが持てるようにしている。仕事としてではなく人対人として対等な関係と思い接している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって家族の絆が一番だと考える。職員だけで支える事は難しくご家族様にも協力いただいている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より行きつけの理髪店を利用されている。情報収集出来ていることに関しては可能な限り継続し途切れない支援を行っている。	これまで利用していた理髪店を継続して利用できるよう支援している。少しずつ重度化へと移行している中ではあるが、馴染みの商店街のこだわりの嗜好品を用意したり、時には買いに出かけたり、また、家族とも協力しながら、好みの飲料を自室の冷蔵庫にそろえる等の支援が行われている。これまでの生活習慣や関係性の把握に努め、継続できるよう支援を行っている。	

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に生活している者同士、関わり合えるよう職員が間に入ることで、孤立しないようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様やそのご家族様から近況報告を受けたり、グループホームでの生活が必要とされる際には再度受け入れるような支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動により希望があれば個人記録に残し、叶えるように皆で意見交換、検討している。困難な方はご家族様からの聞き取りや、本人本意で考えている。	センター方式を一部活用し、入居時に家族にも協力していただき、情報を収集している。また、3か月毎に、家族との面談の機会を持ち、思いやニーズの把握に努めている。個人記録には、言葉や表情、行動について記載する欄も設けられ、共有や本人本位の検討を行いながら、思いの把握や、実現に向けた取り組みに努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人だけでなくご家族様にも詳しく生活歴を伺い、性格や人柄についても情報を集め把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に得た情報を基に、入居後は現状を把握し生活の仕方に大きな変動がないように出来ること出来ないこと、好きなことなど聞き取りを行い介護記録に残して情報の共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のミーティングにおいて個別のカンファレンスを行い、担当の職員が課題を提示し、全職員にて検討を行い、ご本人ご家族様の要望も含めた介護計画作成を行っている。	担当制をとっている。担当者を中心に、毎月個別のカンファレンスを行い、職員全員で現状の確認や、見直しの必要性について検討している。家族との面談の際には介護記録を開示し、情報共有を図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の言葉、表情、しぐさを重視した記録様式にて日々の様子、ケアの実践、職員の思いを共有している。特に大事な情報の共有や気づきは連絡ノートに伝達している。支援経過を振り返り適正さを判断し見直しを行っている。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の希望により訪問マッサージを取り入れたり、訪問診療以外の受診の付添、遠方のご家族に代わり入院時の付添看護など行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご自宅やご家族との関係を断ち切らない支援を目指し、定期的なご自宅への外出外泊や、ショッピングやカフェに出かける事を楽しみにしていただけるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を尋ねているが、8名は事業所の訪問診療を受けられるように移行され、病変時の対応が適切に受けられる協力体制を作っている。	入居契約時に、希望するかかりつけ医について確認している。基本的に、家族との連携による受診となる。協力医療機関より、週1回の訪問診療があるため、移行される方も多い。訪問看護事業所との連携体制も確立しており、日常の健康管理や、適切な医療を受けられるように支援を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護による健康チェックが行われ、入居者様一人ひとりに応じて適切な処置やアドバイスを受け、些細なことでも相談し24時間連絡が出来る体制となっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先を訪ねご家族様の了解のもと主治医や看護師より情報の収集を行っている。ご家族様にも密に連絡を取り、意向や要望も聞きながら早期に退院できるように支援すると共に、退院後の対応に備えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針についての説明を行い、アンケートにて延命の希望も伺っている。重度化、終末期に入った方に関しては主治医の見解のもとその都度状態に応じての面談を行っている。終末期については運営推進会議や家族会でも度々お伝えしている。	入居契約時に、重度化した場合や終末期のあり方について指針をもとに説明を行い、意向確認を行っている。状態変化の際の希望する対応についても、丁寧に情報収集が行われている。運営推進会議の中でも、重度化した場合や終末期の支援について話し合いが行われている。状況の変化に伴い、その都度話し合いを行い、事前指定書の見直しが行われている。これまでに看取りを経験している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の事故発生マニュアルに沿って勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会や、年2回の避難訓練を行っている。	夜間を想定して、年2回の避難訓練を行っている。自治会長との情報共有や協力要請が行われている。飲料水や食料等については、3日分の備蓄を行っている。	開設して6年目を迎えようとする中、積み重ねてきた地域との関係性を活かし、避難後の見守りや連絡体制の確認等、実際に訓練に参加・協力を得られるように、継続して働きかけを行う予定としている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の勉強会を行い周知している。基本理念に沿ったケアの実践を常に心がけている。	各種の書式や取り組みから、個人の理解と尊重に努めていることがうかがえる。プライバシー保護や倫理・法令順守、認知症ケア等の研修を実施し、人格の尊重やプライバシーの確保について、職員の理解と意識を深めるよう取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は自分の考えを押し付けないよう、入居者様が自己決定できる環境作りを心がけており、言葉をゆっくり傾聴するようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ねの日課はあるが、個人のペースを大切に、希望にあわせて柔軟に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り着る服はご自身で選んでいただき、いつまでも身だしなみを忘れずおしゃれに対して満足感、その次の意欲向上に繋がるように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものは別の物を提供している。利用者と共に出来る範囲内での家事を共同で行っている。	主菜は半調理品を活用し、炊飯等はホームで調理している。嗜好や状態に応じて、メニューの変更を個別に行う等、柔軟な対応が行われている。誕生日には、個別に外出に出かけたり、買い物帰りにコーヒーを嗜むこともある。少しずつ重度化へと移行する中で、力を発揮していただく場面は少なくなってきたが、個別の嗜好品の摂取にも、出来る限り対応し、「食」を楽しめるよう支援している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量はチェック表にて把握している。食事形態は個別になっており、嗜好や習慣により主食の変更も行っている。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な利用者には、職員が毎食後口腔ケアを実施し、舌ブラシも使用して清潔保持に努め、ご自分でできる方は声掛けし、見守り、確認を行い毎日チェックしている。また歯科往診にてブラッシング指導を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握により、日中は可能な限りトイレで排泄できる支援を行っている。尿意、便意のサインを皆で共有し見逃さないように努めている。	排泄チェックを行い、現状やパターン、間隔等の把握に努めている。日中は、出来る限り声かけやトイレ誘導による支援を行い、夜間は個別の状況を検討し支援を行っている。表情や仕草等から、個別のサインを見逃さないよう、職員間で気づきを共有しながら、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬だけに頼らず、水分量や体操、散歩など快便に繋げる取り組みを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴準備を行い声かけし、希望があれば毎日でも入浴していただいている。お風呂がお好きでない方には入浴剤をいれた桶で足浴を行い、入浴へと繋げるような支援を行っている。	毎日入浴準備を行い、週に2、3回程度の入浴となるよう、希望や状況に柔軟に対応している。無理強いとならないよう、声かけや対応を工夫し、気持ちよく入浴できるよう支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとり、その時の状態に合わせて休息を設けるようにしており、加湿器や空気清浄機を利用されている方もおられる。夜間は、室温など環境を整え個別に安眠へと繋がるよう支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別に管理し、用法用量を理解し、服薬ミスのないように3重のチェックを行っている。症状の変化は常に主治医へ報告を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や能力などを考慮しながら、料理、掃除、畑作業などを楽しみ、充実した生活が送れるよう一人ひとりに合わせケアプランに反映させ支援を行っている。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩や、買い物への同行、個別でのドライブなど行っている。年に数回はご家族様との家族旅行を楽しみにされている方もおられる。今後はご家族様も交えての外出を計画中である。	個別の買い物に出掛け、帰りに好きなコーヒーを楽しむ等、週に1回は外出できるように支援している。希望や季候に応じて、散歩に出かけたり、デッキでの日光浴を行っている。現在、家族会を通じて働きかけを行い、家族との外出行事を企画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっているお金とは別に、ご自身で所持し外出時には支払いをされる方もいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を取り次ぎ、直接お話をして頂くこともできる。大切な親類や知人からの手紙も届き途切れない関係の支援に努めている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔で居心地よく過ごせるように湿度、温度の管理を行っており、車椅子の方が自由に活動できるよう空間を作るなどの配慮を行い、玄関や洗面所には花を生け季節感を採り入れた工夫をしている。	木の質感が多用され、天井も高く、明るく開放感ある造りとなっている。各所に季節の花や観葉植物が配置され、リビングの大きな窓からは、そのままウッドデッキへと出ることが可能であり、外気浴等に利用されている。室内各所にソファや椅子が配置され、その時々に応じた寛ぎの場所となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でのテレビコーナーとは別に、ソファを設けることで、DVDを見られたり、気の合う方との会話を楽しまれたりと思い思いに過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の家具や寝具はその方にとっての馴染みの物を配置して頂いている。危険な状態ではない限りは本人の意思を尊重し、職員が勝手に変えることは行っていない。	備品として、ベッドやロッカーが用意されている。使い慣れた筆筒や大切な小物類が持ち込まれており、飾りつけも個性があり、その方らしい居室作りとなっている。冷蔵庫が持ち込まれ、家族の協力により、好みの飲料が用意されている居室もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内はバリアフリーで手すりの設置により安全な環境整備をしている。見守りや声掛けにより出来るだけ自立した生活が送れるように努めている。		